LGBT Lesbian Gay Bisexual Transgender

多様な性を考える映画祭

The Eleventh Aomori International LGBT Film Festival

第11回青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバル

2016.7.10(日)

13:00〜

12:30 開場　18:05 終了予定

シネマディクト 1F

シアター&カフェディクト(80席)

青森市古川 1-21-18 (JR青森駅より徒歩10分)
Tel: 017-722-2068

怒りを力に ACT UPの歴史　青森県内初上映

ACT UP の活動を記録した映像から米国の HIV/AIDS 運動の歴史をたどる。HIV/AIDS の時代を生き抜くために、人種や階級、ジェンダーの枠を超えて力を合わせ社会の変革に挑んだ人々。ACT UP の非暴力抵抗運動は、HIV/AIDS 危機にある米国政府やマスメディアを動かした。大切な人を失う哀しみを育み、人とのつながりの中で生きる力を持ち、セクシーでエネルギッシュな ACT UP の姿を映し出すドキュメンタリー映画。

■監督：ジム・ハバード　Jim Hubbard
■製作国：USA　■製作年：2012 年　■上映時間：93 分　■言語：英語（日本語字幕あり）

日本短編作品集

娘さんを僕にください　東北初上映

「なんで純子は俺の身体は女なのに、普通に接してくれるの？」FtMのルイには、純子という恋人がいる。ある日、純子はルイを両親に紹介するために実家に帰るのだが…。

■監督：藤本裕貴　Hiroki Fujimoto
■製作国：日本　■製作年：2015 年　■上映時間：15 分　■言語：日本語

ある家族の肖像　東北初上映

地域の人達と肩肘張らず交流する２人。ここに至るまで様々な葛藤があったに違いないが「僕らはこれで生きて行く」と言う前向きな開きなおりが基盤にある。LGBT がようやく一般に認知され始めたが、未だ身近な存在として捉え難いと言う人々に、ふたりの何ら当たり前の日常を観て欲しい。そして、様々な立場の人がステレオタイプな家族の呪縛から開放され、家族の形について考えるきっかけになればと願う。

■監督：松井蛙子　Kaeruko Matsui
■製作国：日本　■製作年：2015 年　■上映時間：13 分　■言語：日本語

leave us alone　東北初上映

友達にも恋人にも優しい春樹は、同性愛者には残酷だった。そんな彼の価値観を揺るがす出来事が起こった。

■監督：濱崎藍　Ai Hamasaki
■製作国：日本　■製作年：2015 年　■上映時間：34 分　■言語：日本語

ソウル・フラワー・トレイン　東北初上映

田舎の素朴な父親が都会に娘を訪ねて来た。そんな父と娘の古き良きホームドラマ･･･のはずが。『普通』の父親の『普通』ではいられない、親心が大きく問われる旅となっていくのだった。「MIND GAME」の鬼才 ロビン西の叙情的名篇を映画化。

■監督：西尾孔志　Hiroshi Nishio
■製作国：日本　■製作年：2013 年　■上映時間：97 分　■言語：日本語（英語字幕あり English Subtitles）

『多様な性にYes! IDAHOメッセージ展』を同時開催します

日時：2016.7.10(日)12:30〜20:00
会場：シネマディクト1F カフェディクト
※どなたでも無料でご覧いただけます。
共催：スクランブルエッグ

昨年のメッセージ展より

毎年5月17日のIDAHOT(International Day Against Homophobia and Transphobia:国際反ホモフォビア&反トランスフォビアの日)は、同性愛やトランスジェンダー等への嫌悪や差別に反対する日として、世界中でイベントが開催されます。日本でも「多様な性にYESの日」として記念日になっており、メッセージを募集し街頭で読み上げるアクションや、講演会、展示会など、各地で様々な催しが行われています。

青森県では2009年より、県内のLGBTが中心となって活動するボランティアサークルであるスクランブルエッグが、多様な性をテーマとしたメッセージを展示紹介する取り組みをしており、2011年からは当映画祭とのコラボレーション企画として「IDAHOメッセージ展」を映画祭会場前にて開催しています。

今年も引き続き、このメッセージ展を映画祭会場前にて同時開催することとなりました。是非展示会場にも足をお運びください。映画とメッセージを通して、多様な性をより身近に感じていただける一日になれば幸いです。

※近年、IDAHOからIDAHOTに表記が変更されていますが、イベント名としては現在のところ以前の表記で行っています。

前売券販売所

■青森市／シネマディクト 3F チケット売り場
(☎017-722-2068)

遠方の方は、下記の実行委員会にお問い合わせください。

前売券

1 日通し券 **¥2,200**
上映される３つのプログラム全てをご覧いただけます。

1プログラム券 **¥1,100**
上映される３つのプログラムの中からひとつお選びいただくチケットです。

当日券

1日通し券 ￥2,700
1プログラム券 ￥1,300
※学割チケット（通し券のみ）￥1,800

チケットは全席自由席です。当日券は映画祭会場受付にて残席に応じて販売いたします。

※学割チケットは開催日当日に販売いたします。受付にて学生証をご提示ください。チケットのご予約は下記お問い合わせ先またはウェブサイトからお申し込みください。(学割チケットの前売りはいたしませんので、ご注意ください。)

映画祭終了後 懇親会開催

映画の感想などを語り合いましょう！

■会場／シネマディクト 1F カフェディクト
■参加費／￥1,500
＊軽食・飲物（ソードリンク）込
お申し込みはウェブサイトまたはお電話で

お問い合わせ

青森インターナショナル LGBT
フィルムフェスティバル実行委員会
☎ 090-6459-5136
※留守番電話の場合があります。メッセージを残してくだされば、こちらからご連絡いたします。
✉ info@aomori-lgbtff.org

※会場内、会場付近での写真撮影は固くお断りいたします。※上映中の入場はできませんので、予め開演時間等をご確認ください。(上映が始まりますと会場内が暗くなり、足元が危険です)※会場内での飲食はできませんので、ご了承ください。ただし、シアター前カフェスペースでの飲食は可能です。※再入場の際はチケットの半券を係員へご提示ください。

主催／青森インターナショナルLGBT
フィルムフェスティバル実行委員会
協力／香川レインボー映画祭
シネマディクト
デザイン／エイチピースタイリング

最新情報は公式サイトで要チェック！　http://aomori-lgbtff.org

The Eleventh Aomori International LGBT Film Festival

プログラム内容

❶「怒りを力に ACT UP の歴史」 13:00〜14:40

❷『日本短編作品集』 15:00〜16:05

「娘さんを僕にください」(15 分)

「ある家族の肖像」(13 分)

「leave us alone」(34 分)

❸「ソウル・フラワー・トレイン」 16:25〜18:05

上映作品監督の方々よりメッセージをいただきました。

「娘さんを僕にください」監督　藤本裕貴さんより

この度は「青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバル」にご招待いただきありがとうございます。

この作品はトランスジェンダーを題材に、「恋愛は、性別や身体ではなくて"心"が大切なんだ」ということを、コメディタッチで描きました。ストーリーは不器用な主人公が奮闘する純愛物語です。

愛するパートナーと人生をともにしたい。そんな純粋な想いにフォーカスを当てました。セクシャリティに関係なく「どうして人を好きになるのか」を見つめ直すきっかけになれば嬉しいです。また、畳み掛けるトークバトルも見どころの一つです。

15分と短い尺ですが、上映の機会を与えてくださったスタッフの皆様に心より感謝いたします。そして、ご来場の皆様の心に少しでもひっかかる作品になれば幸いです。

「ある家族の肖像」監督　松井蛙子さんより

この度は、「ある家族の肖像」を上映いただきありがとうございます。

LGBTに対して偏見を持つ人が未だ存在するという事実を感じたことが、本作品を撮るきっかけとなりました。私の身内には当事者がおりますが、その人は私にとっては、憧れの存在で、尊敬すべき人です。昔はゲイなどと言う言葉もない時代でしたが、何ら当り前の事として私達は育ちました。人づき合いの上で、その人自身を見ることを、彼を通して自然に学んだ気がします。

本作品は2014年に上映された、「エソラ」の田中監督とそのパートナーを記録したものです。元より友人であった彼らの「自然さ」をぜひ撮りたいと思いました。何ら特別なことではない事を当事者以外の人に、感じてもらいたい、タイトルにもそのような思いがこめられています。また、作品の中で「周りの人も含めて家族」と語る言葉は、家族の形を模索している私自身にとっても、考えるヒントにもなりそうだと感じています。

「leave us alone」監督　濱崎藍さんより

青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバルにお越しの皆様

はじめまして、濱崎藍と申します。私が仲間とともに作った作品が、この映画祭でたくさんの方に見ていただけることをとても嬉しく思います。

差別をする人は一回差別される側の立場にでもならないと、その人の痛みがわからないのかもしれない、という考えから始まりました。

私は同性愛者ではないので、このテーマを描いていいのか悩んだこともありました。でも、完全に理解はできなくても理解しようと歩み寄ることはできるはずだという希望を込めてこの作品を作りました。どうぞよろしくお願いします。

『ソウル・フラワー・トレイン』監督　西尾孔志さんより

『ソウル・フラワー・トレイン』上映ありがとうございます。

この作品はじっくり観て頂ければ細部に至るまで沢山の種類の、カテゴリーすら並列しない様々な人たちが登場します。ストリッパー、在日外国人、レズビアン、ホームレス、さらにはスリや置き引き犯まで。映画や小説は多くの場合、それぞれの種類の人々を特殊な人であるとして描きます。つまりマイノリティとして。そしてそこに何かしらの社会問題を描き出したりします。

でも私の住む大阪の下町では日常的にこれらの人々が隣り合って生きています。なので私がこの映画で描く大阪の下町では、田舎から娘を訪ねてくる普通の男・天本（平田満）こそがどこかマイノリティとして扱われます。そしてドラマの核となる「娘の職業の秘密」以外のことは、在日外国人もレズビアンも「そこにそうやってあるもの」として問題にすらなりません。

もちろん現実にはいろいろとあるでしょうが「いいじゃないですか、この映画の中くらい、みんな自分らしく生きていれば」と思います。そんな勢いで幽霊まで登場する大阪の下町ですが、皆さんにとって居心地の良い一時間半の観光旅行となれば幸いです。